

ました。今回のメインテーマは「医療安全の諸問題を考えよう」で桑名東医療センター、岡田喜克先生を学術集会会長として開催されました。当日は津まつりが開催されており3連休の初日でしたが県内の医療機関から102名の参加がありました。一般演題では15題の発表があり地域医療連携における病院放射線科の取り組みや転倒・転落をはじめとする医療安全などについて興味ある発表がなされました。特別講演は名古屋大学医学部附属病院、医療の質・安全管理部教授の長尾能雅先生による「新しい医療事故調査制度について」の講演が行われ、この10月から始まったばかりの新制度について参加者は興味深く聴き入っていました。最後に本学術集会が盛会のうちに終了できましたことを、ご協力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

第11回広島支部学術集会

学術集会会長：中電病院病院長 岩森 洋

2015年10月10日(土)にJAビル10F会議室にて第11回日本医療マネジメント学会広島支部学術集会を開催いたしました。当日は、県内の医療関係者をはじめ119名の方々の参加を戴きました。

第1部は、「地域医療構想に対する各医療機関の対応」について、広島県健康福祉局医療介護計画課課長・久保康行様、福山市民病院病院事業管理者・高倉範尚様、広島市民病院院長・荒木康之様、呉市医師会病院院長・中塚博文様の4名の先生により、それぞれのお立場からのご講演を頂きました。

第2部では、第1部での演者4名によるパネルディスカッションを行いました。各医療機関の現在の取り組みをはじめ、広島県の地域医療構想の今後について県内の医療関係者らとの活発な意見交換がなされ、盛況のうちに閉会となりました。

本学術集会の開催にあたって、ご協力くださった関係各位の皆様には心より感謝申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第14回島根支部学術集会

学術集会会長：安来市立病院院長 小川東明



会場風景

2015年10月10日(土)、第14回島根支部学術集会を島根県産業交流会館(財)くにびきメッセにおいて開催しました。当日は355名の皆様に

参加をいただき、テーマを「地域包括ケアシステムを

指して～医療機関としての役割を果たすためには～」とし、特別講演には、宮城県涌谷町町民医療福祉センター長の青沼孝徳先生に「涌谷町における地域包括ケアの取り組み～過去・現在・未来」と題してご講演をいただきました。昭和40年代から実践してこられた地域包括ケアの取り組みから、2025年問題など超高齢化社会に対応していくシステム構築に向けて、実例を交えながら紹介をいただきました。ランチオンセミナーでは、JA埼玉県厚生連熊谷総合病院診療看護師の多田朋子先生に「地域包括ケアシステムを目指して 大学院NPコース(特定行為研修)修了看護師の役割を考える」と題して、地域完結型である地域包括ケアシステムにおいて、医師との共通認識をもち、患者の心に寄り添い、看護の視点で患者を支え、看護師に求められるニーズに対応して行くため、「特定行為に係る看護師の研修制度」についてその意義の重要性等についてお話をいただきました。シンポジウムにおいては、「地域包括ケアシステムの推進と医療機関としての役割」と題して、6名のシンポジストの皆さんから、それぞれの立場でテーマについて発表・討議をいただきました。また、ポスター発表も36題あり、それぞれの取り組みが報告され熱心な意見交換が行なわれました。

本学術集会開催にあたり、ご支援ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

第15回北海道支部学術集会

学術集会会長：JA北海道厚生連札幌厚生病院

副院長 高橋昌宏

2015年10月17日(土)、ACUにて第15回北海道支部学術集会が開催され、100名近くのご参加を頂きました。

「機能分化と医療の質向上」というテーマのもと、一般演題23題を「業務改善」「医療情報・システム」「経営の質」「リスクマネジメント」「医療の質向上」の5つのセクションに分け、ご発表・ご討議頂きました。

特別講演は、作家・ジャーナリストの外岡秀俊先生に『心って何だろう 長寿社会の北海道で考える』と題しご講演頂きました。認知症が増加する社会の中で、精神的な人と人との繋がりを自身の経験を踏まえお話し頂きました。

また、ランチオンセミナーでは、倉敷中央病院統括看護師長の山本千恵先生に、『始めませんか、術前外来—他職種で実践する手術患者のリスク回避—』と題し、周術期管理チームの役割や実績などをわかりやすく解説して頂きました。

ご参会、ご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。